



仕掛を考えよう

昨日紹介した村松先生の仕掛学の話は、その面白さを伝えようと思って、事例の部分を中心に紹介したために、大切な部分をかなり端折ってしまった印象がある。理論的な部分などを含め、再度紹介しよう。

*

このように、ちょっとした仕掛けで人の行動が変わることはよくあります。冒頭では仕掛けを「つい行動したくなるきっかけ」と紹介しましたが、もう少しちゃんとした定義もあります。仕掛けが満たすべき要因は、公平性 (Fair-ness、誰も損をしない)、誘引性 (Attrac-tiveness、ついしたくなる)、目的の二重性 (Duality、仕掛ける側と仕掛けられる側の目的が異なっている) の三つがあり、それぞれの頭文字をつなげFAD要件と呼んでいます。仕掛けに興味が出てきた方は、ぜひFAD要件を意識して仕掛けを考えてみてください。

街なかで「ポイ捨て禁止」ような貼り紙を目にすることはよくあります。しかし、ポイ捨てをしない人にとっては気持ちのいいものではありませんし、景観も美しくありません。ポイ捨てに限らず、運動不足、食べ過ぎ、エネルギーの浪費など、社会の諸問題の多くは自分自身の行動が作り出しています。したがって、自分たちの行動を変えることが最も直接的な解決策になります。仕掛けによってこれらの諸問題を解決することに応用できると考えています。

日常生活において解決したい問題に遭遇した時は、人の行動を無理やり変えようとするのではなく、つい行動を変えたいくなるような仕掛けを考えてみることで解決策が見つかる

かもしれません。

(大阪大学、村松真宏教授の文章から)

*

この研究は村松先生が立ち上げた新しい分野である。だから、まだ仕掛学の研究者はほとんどおらず、現在はさまざまな形で知見を蓄えている状況とのことだが、それでも、研究書のみならず、一般の人にも読んでもらいやすい本を出版したり、地域や企業と共同研究をしたりするといった地道な活動が実を結びはじめて、さまざまな講演に呼ばれたり、共同研究の輪が広がったりしているようだ。

そるなると、前号の「返報性の原理」ではないが、色々なところから「こんな仕掛けがありますよ」という事例が届くようになり、研究の進むスピードも高まっているとのことである。めでたし、めでたし。

ここで小論文向け練習問題。

【問】引用文の中に「ポイ捨て禁止の貼り紙」の事例が出てくるが、それを解決する「仕掛け」を考え、具体的に提案しなさい。

さて、なかなか難しい。村松先生の文章にも具体的な解決例は出てこないの、時間がある時にでも、頭の体操のつもりで考えてみよう。もちろん、FAD要件を満たさないといけないわけだから、その辺りを明確にしながら論じると、よい解答になるだろう。

それはさておき、自分の身の回りのことに目を向けると、確かに課題は「自分自身が作り出してい」ることが多いのではないだろうか。早起きでもイイし、早く勉強に取りかかる方法でもイイし、スマホから遠ざかる方法でもイイから、何か仕掛けを考えてみよう。